

やまね きょうしろう
山根 京志郎さん

JICA 海外協力隊 2019 年度 2 次隊

派遣国：ジンバブエ 職種：サッカー

2020 年 3 月に新型コロナウイルスの感染拡大により一時帰国後、
2021 年 3 月から再派遣



2021 年 9 月 19 日（日）中国新聞 SELECT 掲載

※中国新聞社の許諾を得ています

サッカー指導 日々挑戦

ここはアフリカ南部に位置するジンバブエ。国名（ショナ語で「石の家」の意味）の由来と言われるグレート・ジンバブエ遺跡やビクトリア・フォールズといった観光名所のほか、かつてお金の価値が暴落するハイパーインフレを経験したことで知られている。

私は現在、JICA 海外協力隊として、ビンドゥーラ科学教育大学を拠点にサッカーの指導に携わっている。大学の新型コロナ

ウイルス感染防止対策によって、選手たちは分散して登校する。このため全選手がそろって練習や試合をすることが難しい。この現状が本当に悩ましい。

そんな私にいつもポジティブな声をかけてくれるのは、相棒のコーチや選手たちである。「困ったことはないか」「ジンバブエは好きか」。毎日の同じ質問にうんざりした気持ちになることもあるが、私は彼らの優しさに支えられている。

彼らはいつも「チャレンジだ」と言う。「恵まれた環境ではない。不便なことも多い。しかし不便だから不幸なわけではない。だからこの環境に感謝しチャレンジしよう」。これは私の相棒の言葉だ。

どんな環境でもタフに生きる彼らに教えられているのは私なのかもしれない。早く感染拡大が収束し、彼らの優しさに応える結果を一つでも多く残したい。私も彼らのようにタフな人間になって、チャレンジする人たちの支えになりたい。

彼らは明日もまたいつもの質問をしてくるだろう。「何も問題ない、ジンバブエが大好きだ！」。そう答えて、また私たちのチャレンジの日々が始まる。



新型コロナの感染拡大前、

大学の OB たちも集めて行われたサッカーの合同練習試合